

芝生の張り方

庭に芝生を張ることは、見た目が美しくなるだけでなく土ぼこりを抑えたり地表の急激な温度変化を抑えたりするメリットがあります。

張り方自体に難しい点は何もないで、庭づくり初心者にもおすすめです。

作業カレンダー

芝張りにおすすめの時期は、3~6月(北日本は4月~)。根が付きやすく、温度も上がるので芝の生長に適しています。

夏(7~8月)は水を切らさないなどの管理が大変だが、根は付きます。

秋・冬は気温が低く、せっかく張っても根は休眠状態で付きにくいので寒冷地での芝張りはできません。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
高麗芝										刈込み		病害虫駆除
										芝張り		刈込み・更新 ▲刈込み

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
西洋芝										刈込み		種まき
												病害虫駆除

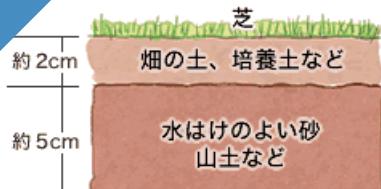
品種名	特徴
高麗芝 (日本芝)	家庭園芸用として最もポピュラーな品種。九州と沖縄に自生する暖地型の芝で、東北の以南くらいまでは栽培可能です。 乾燥や肥料不足にも耐え、丈夫で栽培しやすいのが特徴です。
野芝 (日本芝)	日本の全土に自生します。公園や大きな庭でよく見られる芝です。丈夫ですが、高麗芝より葉の幅が広くキメが荒い芝。
西洋芝	高麗芝・野芝に比べて葉の緑色が濃く、四季を通じて緑が楽しめる通年型の芝です。芝生のキメが細かいため、ゴルフ場などで使われます。日本では種子繁殖の品種が主に用いられています。



今回使った材料

- ・芝生 … 10枚 × 3束
(1束約0.5坪)
- ・砂 … 5袋
- ・培養土 … 3袋
- ・芝の目土 … 芝生1束あたり1袋
(1cm厚で敷いた場合)

1 下の材料を用意する



下地がデコボコしていると、雨が降ると表面に水たまりができてしまうので、芝生を張る部分の整地をすることが何よりも重要です。
下地を作る際に気を付けたいのは「水はけを良くする」ことです。降った雨がすぐ排水されるように、下地には砂を使います。そこに土(畑の土や培養土でよい)を敷いた上に、芝生を張っていきます。

2 下地を整える



芝生を張る場所全体を7cm程度掘ります。表面に凹凸がなくなるように平らにならしながら掘ります。そして、砂を厚さ4~5cm敷きます。



スコップやレーキで砂を平らに慣らしたら、全体に散水します。こうすることで砂が締まり、また凹凸も解消させることができます。



砂の上に培養土を敷きます。土を上に敷く理由は、保水性を高めて水切れさせないようにするためです。



スコップ等で十分に慣らした後、足で踏み固めて土を締めます。凹凸や段差ができるないように丁寧に進めましょう。

3 芝生を張る



20cm × 30cmのマット状になった高麗芝。
1m × 2mの面積では3束必要です。



となりの芝とは1~2cm離して置いていきます。芝の脇から水が浸透しやすく、丈夫な芝に育てられます。



芝生の根まで水が行くようになつぱりと水をまきます。張ったばかりの芝は乾燥しやすいので水管理が重要です。



敷き終わった芝の上に『芝の目土』をかぶせます。目土は粒のそろった細かい土で、芝の生長に役立ちます。1cm厚で敷いた場合芝生1束(約0.5坪)あたり1袋必要です。



ほうきを使って芝の目土を芝全体に行き渡らせます。芝生の表面にも土を入れなじませます。最後に、板の上から足で踏み固めます。



となりの芝とは1~2cm離して置いていきます。こうやって間を空けたほうが芝の脇から水が浸透しやすく、丈夫な芝に育てられます。

4 散水